

●明治は、国の安全と条約改正に苦闘した時代

▽陸奥宗光 小村寿太郎が

日本外交の第一人者として 名を残すのも
この明治国家 最大の国家目標を 解決したから

●明治19年は「第二の黒船」、二つの激震に襲われた
— 8月の「長崎事件」 —

清国北洋艦隊(丁汝昌提督)が1日、長崎入港。
朝鮮半島をめぐる日清関係が緊迫している
時。名目は親善訪問でも、日本に対する清国海
軍のデモンストレーションだった。

定遠、鎮遠は7400ト、12吋(30㌢)主砲4門搭載
の世界最大の戦艦。その頃の日本の軍艦は、一
番大きなものでも1700トで鉄骨木造艦みたい
なもの。日本の海軍将校が目を見張ったのが、
目標を狙ってグルグル回る主砲の砲塔。「神業
のように見えた」という。厚さ14吋の鉄鋼で守
られ、舷側の装甲も12吋。日本の大砲は盾1枚
で敵弾を防ぐだけ。海軍の軍人をからかって、
「君、定遠に勝てるかね」が流行り言葉に。

酒に酔った水兵数人が丸山遊廓で暴れ、警察
に捕まって清国領事館に引き渡された。13日、
水兵400人が「侮辱された、報復だ」と警察署を
襲撃、警官や市民と乱闘になり、80人余りの死
傷者を出した。市内で乱暴狼藉しても、力では
かなわない。「警官にサーベルを持たせるな」、
こんな屈辱的な要求まで呑んで艦隊の一日も
早い出港を願ったという。

清国は調査中として交渉に応じず、独公使の
調停で20年2月に合意に達した。双方自国の法
律に従って処分、互いに処分に干渉しない。死
傷者には互いに見舞金を給付、賠償はしない。

▽明治維新以来 初めて

国民の関心を 国防に向けさせた事件

▽政府も「建艦公債」1700万円を募集

海軍予算(490万)の3倍半を 国民の愛国心に

▽三景艦(松島 敷島 橋立)を建造

陸奥 宗光(むつ・むねみつ)

弘化1(1844)～明治30(1897) 紀州藩勤
定奉行伊達宗広の子。15歳の時、江戸に
遊学。京都で勤王運動に参加し慶応3年
脱藩、長崎で海援隊に加わる。維新後は
外国事務局御用掛、神奈川県令、租税頭
歴任。薩長閥専横に抗議し辞職したが、
明治8年元老院議官。西南戦争の際に反
政府挙兵を企んだとして禁獄5年。16年
出獄後欧米を視察、19年外務省に入る。
21年駐米公使、山県内閣農商務相。25年
伊藤内閣外相となり27年イギリスとの
間に条約改正を実現。日清戦争で下関
講和会議全権。著に「蹇蹇録」(けんけんろく)

小村 寿太郎(こむら・じゅたろう)

安政2(1855)～明治44(1911) 宮崎県飢
肥(おひ)藩出身。文部省留学生としてハ
ーバード大に学び、司法省に入る。大審
院判事を経て外務省に転じ、明治21年
翻訳局長。陸奥に見出され外務次官、駐
米・駐露・駐清公使を歴任し34年桂内閣
外相。日英同盟に調印し、日露開戦外交
を指導した。ポーツマス講和会議全権、
駐英大使。41年再び桂内閣外相。韓国併
合と関税自主権回復を行なった

丁汝昌(てい・じょしょう)

?～1895 北洋艦隊提督。日清戦争で黄
海海戦に敗れ、威海衛に拠ったが、日本
艦隊に封鎖され、降伏して服毒自殺

…… 速射砲装備の快速艦が必要だった ……

明治天皇が23年3月、勅語を出し、30万
円を寄付されると、国民は月給3円、5円
の乏しい懐の中から身を削るようにし
て、30銭、50銭と献金した。新聞は連日1
段、2段の紙面を割いて寄付者の氏名を
掲載したが、203万8千円も集まった。

▽「長崎事件」こそが 連合艦隊の土台のスタート

— 10月の「ノルマントン号事件」 —

24日、嵐の紀伊半島沖で英貨物船ノルマントン号が遭難沈没、船長以下英船員27人がボートで脱出したのに船倉の日本人乗客は23人全員が水死した。「日本人は見殺しにされた」と、国民は怒ったが日本には裁判権はない。

神戸の英領事裁判でドレーク船長は無罪。時事新報は11月6日付紙面に大鳥圭介の「何卒事実穿鑿の上世上へ広布し社会の公論を促し度候」の投書を掲載、東京日日新聞も翌日の紙面で、名文記者福地桜痴が「外人は日本人を処すること荷物の如し」と糾弾した。内務省は船長を殺人罪で告訴したが、横浜の領事裁判でも、有罪にはなったものの禁固3か月だった。

▽国民は 不平等条約の理不尽さ

二流国民として扱われる悲哀を 痛感した

●帝国主義時代の悪どさの見本、「安政の五条約」

▽関税は 一律5%に抑えられた

少しでも税収を多くしようと 輸出税まで

▽外国は 自国の産業保護に 高い関税

一番低いイギリスでさえ11%

日本の歳出に占める関税は たった4%なのに

英は26% 不平等を絵に描いた貿易条件

— 治外法権 —

国際法上、外国元首・外交官・外交使節などの外国人が滞在国の管轄権に服することを免れる権利。特に裁判権から免れる特権をいう。

19世紀に産業革命によって技術国家、文明国家になった欧米諸国は、新たな資源、市場を求めてアジア、アフリカに進出したが、文明を物差しに、自分たちより劣っている国、未開の国を植民地にし、奴隷同様に扱った。戦争も領土拡張も愛国的行為だったし、「法整備の整っていない国に自国民の裁判を任せるわけにはいかない」と、領事が赴任国で在住する自国民を裁判する領事裁判方式をとった。

この金でアームストロング社(英)に注文した速射砲が、定遠、鎮遠の巨砲を圧倒する勝因となった。

大鳥 圭介(おとり・けいすけ)

天保4(1833)～明治44(1911) 兵庫県生まれ。慶応2年幕府歩兵指図役頭取となり仏式訓練を実施。五稜郭で敗れ入獄、明治5年新政府に仕え、15年工部大学長兼学習院長。22年駐清国公使

福地 桜痴(ふくち・おうち) 格 源一郎

天保12(1841)～明治39(1906) 兵庫県生まれ。幕府通訳として欧米を回り、明治1年「江湖新聞」を発行、幕府を擁護したため逮捕。7年「東京日日新聞」に主筆として入社、名文を駆使した。歌舞伎座創立に参加、脚本「春日局」。37年衆院議員

ペリー(Matthew Perry)

1794～1858 米東インド艦隊長官。嘉永6年浦賀に来航し開国を要求、翌安政1年江戸湾に再来、幕府と和親条約締結

…… 長い鎖国で……

嘉永6年(1853)ペリーの黒船が浦賀に来航すると、「泰平の眠りをさます上喜撰(お茶の壺=藪船)、たった四杯(4隻)で夜も寝られず」と歌われたように、外交知識もなく、なす術がなかった。幕府の政治機構は、専ら大名、民衆を治めるために作られていて外国人相手の人材も育てていなかった。

翌安政1年に再び現われたペリーの言いなり。和親条約に続いて5年には日米修交通商条約、さらにオランダ、ロシア、イギリス、フランスの間に、「安政の五条約」が結ばれた。

●明治のリーダーは、白人支配の植民地にショック

福沢諭吉は…

香港で見たのは、イギリス商人に鞭で叩かれ酷使されている中国人だった。「今のままでは日本もこうなる。そうならないためには、欧米に学んで強くならなければならない」と「西洋事情」を書いて欧米文明の紹介に努め、さらに「学問のすゝめ」では、「漢学・国学ではなく、地理・歴史・物理・経済など、日常役に立つ学問を身につけよ」と説いた。人間一人一人が独立し天下国家も独立するという考えだった。

伊藤博文は…

上海で目にしたのは、港にひしめく欧米の蒸気船だった。同行の井上馨が「こんなに船がいる。これが日本に向かってこられたら、ひとたまりもない」と悲鳴をあげた。バリバリの攘夷論者がロンドンに着いた時には、「攘夷なんてとんでもない話だ」とコロリと変わっていた。イギリスの議会、軍隊、工場を見て、この時の見聞が伊藤の人生観を一変させたという。「弱腰だ」「八方美人だ」といわれながら、頑固なまでに現実主義、穏健主義の路線をとり続けた。

●攘夷から急転開国へ — 電光石火の政策転換を実現させたのが、弱冠23歳の陸奥宗光だった

▽陸奥は 鳥羽伏見の戦い(慶応4年1月3日)勝利を見届け大阪へ飛んで アーネスト・サトウを通じて英公使パークスに 外交について意見を求めた
▽パークス サトウが 強調したのは

「日本の主権者が、天皇か徳川将軍かという問題は、外国公使にきちんと通告手続きをとり国際承認を得て、初めて決まる」外国の承認を急げ

陸奥の出した意見書

岩倉具視に提出した意見書は「これからはまず開国・進化主義の政策をとるほかなく、その第一歩として大阪の各国公使に王政復古を通告し、維新の政策を明らかにすべきだ」

福沢 諭吉(ふくざわ・ゆきち)

天保5(1834)～明治34(1901) 豊前中津藩出身。安政5年藩命で江戸で英学を学び、幕府遣外使節に3度随行して欧米を視察。明治1年慶応義塾創設。著に「西洋事情」「学問のすゝめ」。15年時事新報を創刊して論陣を張った

伊藤 博文(いとう・ひろぶみ)

天保12(1841)～明治42(1909) 山口県周防で百姓の子として生まれ萩の足軽の養子に。松下村塾で学び、木戸孝允に従い尊皇攘夷運動に参加。文久3年井上馨とイギリスに密航、4国連合艦隊の下関砲撃を聞いて帰国、講和に尽力。維新後外国事務局判事。明治4年岩倉使節団副使として欧米視察。帰国後は参議・工部卿。大久保利通暗殺後は内務卿となり、内閣制度、憲法制定、枢密院設置など国家体制を整備。18年初代首相に就任し、4次の内閣を組織、3度枢密院議長。33年立憲政友会総裁。38年韓国統監。ハルビンで安重根(朝鮮義兵)に暗殺される

井上 馨(いのうえ・かおる)

天保6(1835)～大正4(1915) 長州藩出身で若い頃は閩多。尊皇攘夷を主張し、文久2年英公使館を焼き討ち。翌年伊藤とイギリスに密航。維新後は新政府参与、大蔵大輔。明治12年参議兼外務卿、18年伊藤内閣外相となり条約改正に当たるが、失敗し辞職。内相、蔵相を歴任

アーネスト・サトウ(Ernest Satow)

1843～1929 文久2年来日し英国横浜領事館通訳となり、オールコック、パークス公使の下で英国の対日政策を反幕派支持転換に貢献。明治28年日本公使、33年清国公使。前後27年間日本に在住。著に「一外交官の見た明治維新」

▽新政府は1月10日 各国に

王政復古と大政奉還を通告 国内に対しては
「大勢まことにやむを得ず、このたび朝議の上、
断然和親条約を結ばせられ候」と 布告

●陸奥の反骨精神は、少年時代の辛い体験から

— 青雲の志を抱いて —

10歳のとき父伊達宗広(緋州龍崎)が藩内の権力闘争に巻き込まれ田辺(緋州)に10年間の流罪となった。この一家離散、流亡の辛い体験が陸奥の意志の強さ、反骨精神を育てた。伊達家が陸奥国伊達郡出身だということで、「一郡の主より一国の主たらん」と陸奥を名乗るように。安政5年、江戸で儒学を学ぼうと15歳で和歌山を出るとき、七言絶句を残している。

朝誦暮吟(ちょうじゅうぼぎん)十五年

飄身漂泊似難船(ひょうしんひょうはくなんせんかたり)

他事争得生鵬翼(たじいかにほうよくをしょうずるをえて)

一挙排雲翔九天(いっきょくもをはいてきゅうてんをかける)

攘夷か開国かで国論が沸騰している時。父が脱藩して京都で尊皇攘夷運動をしていたこともあり、京都、大阪を往来して、薩長の志士、坂本竜馬と交わるようになった。

自分の目で外国を見たいと思っていたが、英語の先生に選んだのが星亨。「英傑、怪傑、あるいは梟雄」と様々な評価があるが、前田蓮山は「わが政党史上、彼のように複雑怪奇か単純素朴か、得体の知れぬ大きな存在を他に見出し得ない」— 星との親交はこの時から始まり、明治29年星を駐米公使に起用したのも陸奥。

陸奥の英語に磨きをかけたのが、竜馬の海援隊に入り長崎へ行った時。外人宣教師宅にボーイとして住み込み、奥さんから英語を習う。

生来機を見るに敏。外交官として一番大切な資質を備えていた。

●陸奥も父親同様、流罪生活

▽西南戦争(明治10年)の際 反政府挙兵に連座したと
「除族の上、禁獄5年」の判決を受け 山形監獄へ

パークス(Harry Smith Parkes)

1828~1885 慶応1年英国公使として横浜に着任。幕府支持の仏に対抗、薩長を支援して明治政府を列国に先駆け承認した。明治16年清国公使。北京で客死

岩倉 具視(いわくら・ともみ)

文政8(1825)~明治16(1883) 京都生まれの公家。王政復古を唱え明治4年右大臣。特命全権公使として欧米に渡り、条約改正交渉をしたが失敗。帰国後、征韓論を斥け内政優先、天皇制確立に努む

…… 陸奥と伊藤の仲 ……

陸奥は1月11日付で外国事務局御用掛に任命された。伊藤、井上らの中で最年少。ここで伊藤と机を並べたことで、生涯の付き合いが始まる。

薩長閥が大嫌いだった陸奥だが、伊藤にだけは一目置き、伊藤もまた「あらゆる場面に何か解決策を持っている人物だ」と、陸奥を買っていた。この2人の信頼関係が条約改正を成功させる。

坂本 竜馬(さかもと・りょうま)

天保6(1835)~慶応3(1867) 土佐藩出身で、文久1年土佐勤王党に参加し志士活動に奔走。脱藩して勝海舟の門に入り、神戸海軍操練所設立に尽力。長崎で海援隊を組織。薩長同盟を仲介、倒幕派結集に成功した。藩主を動かし、幕府の大政奉還を実現したが京都で暗殺される

星 亨(ほし・とむ)

嘉永3(1850)~明治34(1901) 江戸の左官職人の家に生まれる。英学を修め、明治7年イギリス留学。15年自由党に入党し藩閥政府を攻撃し入獄。欧米視察後、25年衆院議員。議長に選ばれたが除名。29年駐米公使。政友会創立に参加、32年伊藤内閣通信相。政友会総務として力を振るったが、剣客伊庭想太郎に暗殺

▽陸奥は 毒殺を恐れ 監獄の食事には箸をつけず

陸奥の命綱・古河市兵衛と後藤又兵衛

新政府は明治5年6月、金繰りに困って三井や小野組に貸し付けてあった公金を一斉に引き揚げようとした。豪商はこの金で商売し、政府に儲けさせるのだから手元からは出払っている。小野組の大番頭古河市兵衛は「それでは倒産する」と、租税頭をしていた陸奥に陳情して猶予して貰った。後日お礼を持って行くと、陸奥に叱られた。「公金を引き揚げれば全国の経済が混乱するから止めたままで、小野組のためではない。不心得なことをするな」

古河は陸奥に惚れ込み、生涯のパトロンとなっただけでなく、実子が大勢いるのに、陸奥の次男潤吉を養子にし古河家2代目の後継ぎに。

小野組は染料を一手に扱っていて、番頭の又兵衛は山形に「後藤又兵衛旅館」を開いて紅花の集荷基地にしていた。古河の指示で、又兵衛は毎日の食事を一日も欠かさず差し入れた。

古河は全く読み書きの出来ない人だったが、渋沢栄一は「無学の偉人」と言っていた。

前田 蓮山(まへだ・れんざん) 格 対

明治7(1874)～昭和36(1961) 長崎県生まれ。政治評論家。時事新報政治記者を経て読売新聞論説委員。著に「原敬伝」

「わっぱ事件」

明治7年8月、酒田で大規模な農民一揆があった。わっぱは、木のつるで作った弁当箱のことで、「租税をとられ過ぎた。わっぱで配分できるほど、多額の納め過ぎがある」と、返還を求め訴訟に持ち込んだ。酒田県令は「鬼県令」といわれた三島通庸。元老院議官の陸奥は書記官を現地に派遣、「三島のやり方に非がある」と糾弾した。

農民勝訴の判決が出たのが11年6月3日、陸奥逮捕が1週間後。送られる先が山形県令になっていた三島の所とあって、陸奥も毒殺を警戒した。

三島 通庸(みま・みつゆ)

天保6(1835)～明治21(1888) 薩摩藩出身。明治7年酒田県令となり、鶴岡、山形県令。「わっぱ事件」を弾圧し、15年福島県令。会津の道路掘削工事を計画、労役反対の福島自由党を弾圧し「福島事件」を起こす。18年警視総監となり、20年保安条令で民権派500名を東京から追放

古河 市兵衛(ふるかわ・いちべい)

天保3(1840)～明治36(1903) 京都生まれ。小野組生糸買付主任を務め、米穀取引に手腕を発揮。小野組倒産後、鉱山業に乗り出し銅山12、銀山8、金山1を経営して、古河財閥の基礎を固めた

渋沢 栄一(しぶさわ・えいいち)

天保11(1840)～昭和6(1931) 埼玉県の豪農の出。一橋家に仕え、パリ万博の際渡欧。この見聞を基に、第1国立銀行、王子製紙、東京瓦斯を設立、手形交換所や商工会議所を組織、「財界の大御所」に

▽山形監獄が 放火で全焼(12年9月)

陸奥の焼死が 誤って 伝えられた

伊藤(内閣)は 陸奥を 設備の良い宮城監獄に

▽陸奥は 朝8時から夜12まで ひたすら読書

ベンサム(イギリスの思想家)本を 翻訳したのも

「剃刀大臣」といわれた 鋭い分析力が

磨かれたのも 獄中だった

原敬との縁

郵便報知新聞の記者原は、「海内周遊日記」連載のため仙台を訪ねた時、陸奥に会っている。「原敬全集」には「余の始めて伯(伯のこと)を知るは明治十四年伯の宮城監獄に在りし時なり」。

原は23年、陸奥が農商務相のとき参事官兼秘書官をしていて認められ、28年陸奥外相の下で次官に就任する。原は、何か難しい問題にぶつかるたびに、まず「陸奥ならどう処理しただろうか」を考えて、行動したという。

●陸奥は明治25年8月、伊藤(第2次)内閣外相に

「元勲内閣」

閣僚中10人中、維新の元勲が伊藤、山県有朋、黒田清隆、井上、大山巖、後藤象二郎と6人も。

▽伊藤 陸奥は 条約改正を決行する肚だった
憲法を作り 国会も開設「今こそ、その時」

●条約改正交渉の歴史は、失敗の連続だった

- ▽岩倉使節団(船4年)が 真っ先に訪米したのも
通商条約に「171か月後(船5年)改正交渉出来る」
- ▽国際法 外交知識の不足あって 失敗した
- ▽井上の「鹿鳴館時代」も 条約改正したい一心から

鹿鳴館

英人技師コンドル設計の2階建煉瓦造りの社交クラブ。16年11月28日、内外の名士千人余りを招いて盛大な完工の宴を張った。以来、連日のように舞踏会が開かれた。

20年4月20日、首相官邸大仮装舞踏会では、伊藤がベネチアの貴族、山県が奇兵隊、井上が三河万歳。浦島太郎に扮した大倉喜八郎は「実に奇妙な時代だった」と回想している。

- ▽欧化主義一辺倒には反発 国粹主義 国権主義
- ▽外国も「まだ日本人に裁判は任せられない」
- ▽井上が考えたのは 外国人を判事・検事に任用
外人訴訟には 外人判・検事を多数用いること
- ▽20年4月 各国公使と条約改正会議
合意に達したが ボアソナード(船顧問)が反対
「旧条約における不利益は、外人居留地のみに限られているのに対し、この案では外人判・検事任用の不利益が全国的なものになる」
- ▽谷干城農商務相も 反対して辞職
- ▽井上は7月29日 各国公使に
条約改正会議の無期延期を通告 外相辞職

内地雑居

安政の開国で東京、神戸、横浜、長崎などに外人居留地を設けたが、居留地以外では居住、商売、旅行の自由も認められていない。条約改正というのは、居留地をなくし、治外法権を撤廃

原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921) 盛岡南部藩出身。郵便報知記者、農商務省を経て明治25年陸奥が外相になると外務省に移り、政務局長、次官。逓信相、内相を歴任し大正2年政友会総裁。7年首相、初の政党内閣を組織したが、東京駅で暗殺

山県 有朋(やまがた・ありとも)

天保9(1838)～大正11(1922) 長州藩出身。陸軍大将・元帥。奇兵隊軍監。維新後ヨーロッパに派遣され、帰国後、陸軍大輔として軍制確立、徴兵令制定。参謀本部長、初代内相となり、内務官僚の支配権を握る。明治22首相、31年再度首相となり、文官任用令改正、軍部大臣現役武官制を実施。日露戦争では参謀総長

黒田 清隆(くろだ・きよたか)

天保11(1840)～明治33(1900) 薩摩藩出身。明治8年開拓長官となり北海道開拓の基礎を作る。22年首相、条約改正交渉に失敗し辞職。28年枢密院議長

大山 巖(おおやま・いわ)

天保13(1842)～大正5(1916) 薩摩藩出身。陸軍大将・元帥。明治3年欧州を視察し陸軍卿、明治18年陸相。日清戦争では第2軍司令官。参謀総長を経て日露戦争で満州軍総司令官。大正3年内大臣

後藤 象二郎(ごとう・しょうじろう)

天保9(1838)～明治30(1897) 土佐藩出身。新政府で参議、征韓論争に敗れて辞職。黒田内閣など逓信相、農商務相歴任

コンドル(Joseph Conder)

1852～1920 英建築学者。明治9年、工部大学校教授として来日、帝室博物館、鹿鳴館、東大法学部講堂、ニコライ聖堂など、日本の洋風建築に多大な業績

させる代わりに、外人の居住、商売も日本人と一緒にさせる、雑居させるということだった。

しかし一般民衆の間には、外人に対する警戒心、薄気味悪いといった感情の強い頃で「不平等はけしからんが、外人は今まで通り、居留地に押し込めておいた方がよい」の声となった。

●大隈重信外相は、各国公使と秘密交渉

▽22年5月にアメリカ

6月には ドイツの同意も 取り付けた

..... 大隈の条約改正案

①外人に内地を開放②輸入税率を1割2分に引き上げる ③条約実施5年後には領事裁判を廃止する④大審院に若干名の外人判事を任命し外人が被告の場合には外人判事を多数とする

▽一切秘密のはずが ロンドン・タイムズが特報

..... ロンドン・タイムズ(4月19日付)

「日本は列国をして領事裁判権を撤回せしむる条件として、内地を外国人に開放し、日本の大審院に外国人判事を任用し、金額百円以上の利益または罰金に関する民刑上告事件に参与せしめ、かつ原告または被告の一方が外国人なるときは、その裁判官の過半数を外国判事に充つることを約定した。この制度は、十年間継続するものとし、その満期後に於て、列国は初めて日本の司法権を承認して自国の判事を引き揚げるという取り極めになっている」(小村寿太郎が流したといわれる)

▽陸羯南の新聞「日本」が それを

3日間(5月31日)にわたって特集

▽「外人判事は屈辱的だ、主権侵害だ」と

激しい反対運動が起こり 国論は沸騰した

▽外人判事を 大審院だけに限った 大隈案は

井上案と 五十歩百歩のものだったが

決定的に違ふのは 憲法が公布(2月11日)された

▽「裁判官任用規定」(第58条)「文官任用資格」(第19条)

これらに 抵触するのではないかと 閣議も紛糾

大倉 喜八郎(おくら・きちろう)

天保8(1837)～昭和3(1928)新潟県新発田の豪商の出。江戸で鉄砲店を開業、戊辰戦争で巨利を得る。大倉商会を設立、日清・日露戦争で軍需品の調達と輸送。明治31年大倉商業学校(現慶応大学)創立

ボアソナード(Boissonade)

1825～1910 フランス法学者。明治6年パリ大教授から招かれ22年間、東大、司法省法学校で講義、旧刑法、民法を起草

谷 干城(たに・たてき)

天保8(1837)～明治44(1911)土佐藩出身。陸軍中将。明治6年熊本鎮台長官、西南戦争で熊本籠城戦の指揮をとり勝利に導く。18年伊藤内閣農商務相

大隈 重信(おおくま・しげのぶ)

天保9(1838)～大正11(1922)佐賀・鍋島藩出身。明治新政府で外国官副知事、13年参議となるが、国会早期開設を要求、長州派と対立して「14年の政変」で免官となる。翌年立憲改進黨を創立、21年伊藤内閣外相。黒田内閣にも留任、条約改正交渉をしたが翌年来島恒喜に爆弾を投げられ、右足を失い辞職。松方内閣外相を経て31年板垣退助と共に憲政党を結成、史上初の政党内閣を組織したが、党内分裂で辞職。大正3年再び首相となり第1次大戦でドイツに宣戦布告、中国に「21か条要求」を突き付ける。この間、明治15年に東京専門学校(現庆応)を設立

陸 羯南(くが・かつなん) 本名 実

安政4(1857)～明治40(1907)津軽藩出身。太政官に仕官したが、明治21年欧化主義に反対して退官。翌年、新聞「日本」を創刊して社長兼主筆。内政・外交に健筆を揮い、明治言論界の代表的存在に

- ▽黒田内閣は 窮余の策として 帰化法を制定し
「大審院判事は帰化外国人に限る」と 閣議決定
- ▽井上(農商務相)は 郷里山口に帰ってしまい
伊藤(樞密議長)も反対して 議長の辞表を提出
- ▽御前会議(10月15日)も 賛否分かれ 結論出ず
- ▽10月18日の閣議の後
1発の爆弾が 外務省門前で 大隈を襲った
- ▽来島恒喜の投げた爆弾が
大隈の右足と共に 条約改正案を吹き飛ばした
- ▽来島は その場で 短刀で ノドを突いて自決
黒田内閣は総辞職 改正交渉も延期された

●陸奥は、完全な対等条約で行こうと決意

「安政の五条約」にはみんな「最惠国条項」

〔最惠国待遇〕ある国と通商条約を結ぶ国々の中で、税率など最も有利な取り扱いを与えられる国をいう。

〔最惠国条項〕二国間の通商条約で、一方の国が第三国に与えている条件より悪い待遇を条約締結の相手国に与えないことを規定した条項。

- ▽駐米公使時代(21年11月)に メキシコと条約締結
- ▽〔最惠国条項〕に 条件をつけていた
「メキシコに内地雑居を認めたのは、メキシコが
領事裁判権を完全に放棄したからだ。他の国も
そうするなら、メキシコと同じ待遇を与える」
- ▽「内地雑居」を武器に 突破口を開こうとした

●陸奥は、交渉相手をイギリスに絞った

- ▽大英帝国さえ攻略すれば 後は問題ない
風になびくように イギリスに従うだろう
- ▽在外公使に 直接交渉させることに
- ▽駐独公使には 改正問題に詳しい青木周蔵
- ▽26年9月 青木を駐英公使兼務にしロンドンへ

…… 青木の迫力 ……………

フレーザー駐日公使が休暇帰国中で、青木が訪ねると、「こんな対等案では到底わが政府の同意は得られない」と、素気なく席を立とうとする。青木は大喝一声、「W a i t !、お待ちあれ」と怒鳴った。「英国はセルビア、ブルガリア

来島 恒喜(くるしま・つねき)

安政6(1859)～明治22(1889) 福岡県生まれ。国粹主義者。頭山満を中心とする右翼団体「玄洋社」に入り、井上の条約改正案に反対運動を起こす。大隈が条約改正に着手すると上京して大隈を襲撃、重傷を負わせ、その場で短刀で自決

…… 大酒飲みの大隈の右足 ……………

大隈の右足は、ベルツ博士の指導で切断手術が行なわれ、日本赤十字看護大学にホルマリン漬けて保存されている。大隈は余り酒を飲まない人だったのに、右足は当時の金で1か月に670円ものアルコールを必要とした。

ベルツ(Erwin von Balz)

1849～1913 明治9年東京医学校教師としてドイツから来日。教育・診療のほか公衆衛生・伝染病予防に尽くし、日本の医学発展に貢献した。明治天皇の侍医。38年帰国したが、著に「ベルツ日記」

…… メキシコとの対等条約 ……………

「日本国内またはその領海に来るメキシコ国の人民及び船舶は、日本の法律を遵奉し、かつその裁判管轄権に服すべきものとす。日本国の臣民及び船舶が、メキシコ国内及びその領海に到るも亦同じ」

青木 周蔵(あおき・しゅうざう)

弘化1(1844)～大正3(1914)長州藩藩医の養子となり、慶応4年藩費でドイツに留学。帰国後は外務省に入り2度の駐独公使を経て明治19年井上外相の下で次官。山県・松方内閣外相。25年3度駐独公使。27年駐英公使兼務となり、日英通商条約を調印。第2次山県内閣外相を経て39年駐米大使。41年帰国後枢密顧問官

など未開に似た国々には治外法権を適用して
ないではないか。なぜ、日本にだけ対等権を拒
否しようとするのか

陸奥の改正案

条約実施期限は5年後。①内地雑居を認め、居
留地を廃止②治外法権撤廃③最高関税を15%
とする。ただ、急激な変動には応じないだろう
と、15%は靴底の皮と絹繻子の2品目だけにし
て大部分は10%に止め、鉄とか鉛など9品目は
5%に据え置いた。関税自主権の部分的回復。

▽思いもかけぬ伏兵が 議会で待ち構えていた

衆議院に「現行条約勵行建議案」上程

安政の条約は、建前としては居留地以外の外
人の行動を制限していた。しかし、それでは不
便だということで、営業活動などには特別に許
可証を出して認めていた。それを条約通り厳
しく勵行させ、一切制限すれば、外国も現在の
条約の不利を悟り、改正に応ずるだろう。本音
は雑居反対、条約改正案を潰すことだった。

●陸奥は、不退転の決意を示した

▽「内地雑居反対は排外主義に外ならない。それは維
新以来の国是である開国主義に反する」

▽伊藤首相も 議会を停会(10日)

応じないと見るや 解散に次ぐ 解散を断行

▽27年7月16日

日英通商改正条約の調印に 漕ぎ着けた

▽陸奥の読み通り まずアメリカ(11月22日)

ドイツ(29年4月4日) フランス(8月4日)も調印

▽日英新条約は5年後 32年7月に実施され

治外法権は 41年ぶりに 撤廃された

▽もう一つの柱 関税自主権の完全回復には

44年2月まで 待たなければならなかった

●明治のリーダーが心がけた「文明」

▽日露開戦で 山本権兵衛海相は

大臣訓示を 艦隊長官に打電させた

天の時、地の利

イギリスは、ロシアの動きに神経を
尖らせていた。露仏同盟(27年1月)で東
のドイツを牽制し、建設中のシベリ
ア鉄道が完成すれば極東に兵力を集
中、イギリスの東洋貿易が脅かされ
る恐れがあった。日本は改正交渉で、
たとえ露仏が石炭貯蔵地を要求して
も絶対拒否を確約している。

イギリス側には、日清関係が緊迫し
ている時。もし、戦争になれば日本は
兵器、軍艦を必要とし、日本に好意的
な国に発注するだろう、との読みも。

陸奥は述懐している

「七月十七日の払暁に、外務省の電信
課長はわが輩の臥房を叩き一通の電信
を渡した。それを見ると「今回の困難も
漸く排除し得て七月十六日を以て調印
を結了せり。本使は茲に謹んで祝詞を
天皇陛下に奉り、併せて内閣諸彦(しげ
ん)に向って賀意を表す」とある。わが輩
は思わず欣躍し、蒲団を蹴って起き出
で、齋戒沐浴して宮城に馳せ付け、御前
に伺候して日英条約調印結了の旨を伏
奏し、次で青木公使に対し、天皇陛下が
その成功を嘉し給える旨を電報した。
一生の中で、この時ほど快感を覚えた
事は前後に絶えて無かった」

青木の返電は「この挙に由り、三十年
の汚辱を一掃し、一躍して文明国の仲
間入相叶うたるは実に大賀大賀」

山本 権兵衛(やまもと・ひんべい)

嘉永5(1852)～昭和8(1933)薩摩藩の出
身。海軍大将。明治31年山県内閣海相と
なり「六六艦隊」を整備。大正2年首相に
就任、軍部大臣現役武官制を撤廃、文官
任用令を改正したがシーメンス事件で
総辞職。12年関東大震災直後、再び首相
となったが虎ノ門事件で辞職

▽「我が軍隊ノ行動ハ常ニ人道ヲ逸スルガ如キコト
ナク終始光輝アル文明ノ代表者トシテ恥ズル所
ナキヲ期セラレムコト本大臣ノ切ニ望ム所ナリ」

▽日清戦争でも 大山巖は

第2軍司令官として出征する際「我が軍ハ仁義
ヲ以テ動キ文明ニ由ッテ戦フモノナリ」と訓示

▽外国と対等になるには

欧米の物差しである「文明国家」になり

欧米から そう認められないと いけなかった

●日清戦争に勝利、李鴻章との間に下関講和条約

▽遼東半島および台湾の割譲 韓国の独立承認

銀2億両の軍費賠償 (4月17日調)

▽4月23日 露・独・仏の「三国干渉」

「日本の遼東半島領有は、清国の首都北京を脅か
し、朝鮮の独立を有名無実ならしめ、極東の平
和の障害となる」

▽広島の本営で開かれた 御前会議は

イギリスなどを入れて 列国会議を開き

その調停に 委ねることになった

▽結核のため 舞子(兵庫)で療養中の陸奥は

「イギリスはドン・キホーテに非ず」と 反対した

— ドン・キホーテ —

17世紀・スペインの作家セルバンテスの長編
小説の主人公。騎士物語の読み過ぎで、騎士道
精神を振りかざして、各地で滑稽な冒険・失敗
を繰り返した。ドン・キホーテの名前は理想主
義的な情熱家を比喻して使われる。

▽「そんな列国会議を開けば、てんでに自分の国の利
害を主張して収拾がつかなくなり、講和条約自体
が壊れてしまう。虻も蜂も捕捉し得ざるの愚を招
く。三国の言うことを聞き、講和条約批准を急げ」

▽閣議は5月4日 遼東半島放棄を決定した

▽「遼東半島還付の詔勅」(5月13日)が 出ると

新聞「日本」は「詔勅下る詔勅下る苟も血ある者
誰か泣て之を奉読せさらんや」

— 「臥薪嘗胆」が国民決意の合言葉に —

陸羯南は15日の新聞に三宅雪嶺が唱えた「臥
薪嘗胆」を載せて「我国は建国以来他の侮蔑を

— 「偉人にも妙な癖」 —

関直彦(関の齋)は「いつも葉巻煙草
を吸っているのに、その半分はよだ
れに濡れて火が消えてしまう。李鴻
章との講和談判にも、やはり、だら
だら垂らしながら議論せられたもの
と思う」と回想している。

関 直彦(せき・なおこ)

安政4(1857)～昭和9(1934)和歌山県出
身。弁護士。明治23年第1回総選挙以来、
衆院当選10回。著に「七十七年の回顧」

李鴻章(り・こうしょう)

1823～1901 清国政界の実力者。太平天
国の乱鎮圧で功績をあげ直隸総督兼北
洋大臣。日清戦争で下関講和会議全権、
義和団事件など難局処理に当たった

…… ロシアは「怖い国」 ……………

面積で日本の50倍、人口で3倍、常備軍
5倍、国家予算10倍。戦艦を28隻も持っ
ているのに、日本には1隻もない。

明治24年5月11日には「大津事件」が起
きた。ロシア皇帝ニコライ2世が皇太子
の時、訪日して琵琶湖見物の帰り、大津
市内で警護の巡査津田三蔵にサーベル
で斬られ、頭に軽傷を負った。今にもロ
シアが攻めて来るのじゃないか、対馬・
千島がとられるのじゃないか — 日本
中が震え上がった。

明治天皇は見舞いに駆け付け、皇太子
に付き添って神戸港のロシア軍艦まで
送り届けた。鴨川の女性(27歳)がお詫び
に自決、青森では村議会が「生まれて来
る子供に三蔵の名前をつけてはいけな
い」と議決した。

大審院長・児島惟謙(こじま・これかみ)は周囲
の干渉に屈せず、津田に大逆罪(弑)を
適用せず、謀殺未遂罪で刑法の規定に
従い無期徒刑の判決を下した。

被りしこと無く、人皆愛国心に富み夢裡尚ほ且外邦の検束を受けんとはせざるなり」と、政府を攻撃した。

「日本」は26日まで発行停止処分を受けたが、「臥薪嘗胆」は国民決意の合言葉となった。

▽司馬遼太郎さんは「坂の上の雲」に「日本の悲痛さは、このケタ外れの大国であるロシアを、敵として仮想せねばならないことであった」

▽日清戦争中 28年の歳出が9千万円

29年は倍以上の2億円 軍事費が増えた

▽陸軍は師団を増やし 海軍は軍艦を造る

国民は 増税に次ぐ増税に 歯を食い縛り

国を挙げての「臥薪嘗胆」が始まった

●ロシアは露清密約(29年6月3日)で、満州へ出る足場

▽ウイッテ蔵相は 李鴻章との間に

対日軍事同盟を餌に 東清鉄道の敷設権獲得

▽日清戦争の結果は 極東のバランスを一変させた

— 列強の中国侵略が始まった —

明治31年3月6日、ドイツが膠州湾、3月27日にロシアが旅順、4月22日にフランスが広州湾、7月1日にはイギリスが威海衛を租借した。99年租借の中で、旅順だけは25年。ドイツが山東半島での宣教師殺害を口実に膠州湾を占領すると、清は同盟国ロシアに泣き付いた。ロシアは「ドイツから守ってやる」という名目で艦隊を旅順に送り、そのまま占領した。清の嚴重抗議に、ウイッテは李に賄賂75万ルーブル贈り、無理矢理承知させたが、租借期間を短くした。

▽33年6月 義和団事件が起こった

…… 山県内閣は慎重だった ……

義和団(浄土信仰の一派・白蓮教系の秘密結社)は「扶清滅洋」をスローガンに、民衆を巻き込み北京に迫った。6月20日には各国公使館が包囲され、清国は翌日、日本など8か国に宣戦布告し正規兵も攻撃に加わるようになった。各国陸戦隊は394人。

早急に大兵力を遅れる国は、距離的に近い日本しかないが、山県内閣は「列国をして我国に

三宅 雪嶺(みやけ・せつれい) 格 雄二郎

万延1(1860)～昭和20(1945) 金沢市生まれ。評論家。明治20年雑誌「日本人」を創刊、欧化主義に対し日本主義を主張。大正12年雑誌「我観」を創刊、晩年は「実業之世界」に巻頭論文を連載執筆した。昭和18年文化勲章。著に「同時代史」

…… 臥薪嘗胆 ……

中国の春秋時代、越王勾踐(こうせん)に父を討たれた呉王夫差(ふさ)は常に薪の上に寝て復讐の志を奮い立たせ、ついに仇を報いた。敗れた勾踐は、室内に胆をかけてこれを嘗め、その苦さで敗戦の恥辱を思い出してついに夫差を滅ぼしたという故事による。

…… ロシアの地勢的位置 ……

大国でありながら、北のバルト海にしか海の出口がない。「海へ出たい、南へ出たい」は建国以来の悲願。黒海から地中海へ出ようとしてクリミア戦争(黷6年)で、英仏と戦って敗れた。西への出口を止められ勢い東へ東へと、太平洋に出口を求めようとした。

明治6年黒竜江を下った所に海軍基地ウラジオストック(東支那するといふ諷)を建設したが、大陸との連絡路は水路の黒竜江しかない。しかも、肝心の太平洋への出口は、宗谷海峡、津軽海峡、対馬海峡と、全て日本に抑えられている。そこで24年5月シベリア鉄道建設という壮大な事業に着手した。

ウラジオは冬になると凍るが、遼東半島には旅順、大連の不凍港があり、ここからなら太平洋へ自由に出られる。蔵相ウイッテは「むざむざ日本に渡すことはない」と、三国干渉の脅しをかけてきた。

援助を乞はしむるを以て得策とする」と、慎重な外交方針をとった。日清戦争で国力を消耗、独皇帝ウィルヘルム2世が唱えた「黄禍論」(艱人種の進出が白人種に禍を招く)が欧米社会に広まっている時、日本が軽々しく突出した形で出て行けば、反感を買う恐れがあった。

イギリスはドイツ、ロシア牽制のため日本の派兵を望み、財政援助も申し出た。山県内閣は各国に異存がないことを確かめた上で、7月15日、まず福島安正少将指揮の第1次臨時派遣隊1288人、さらに第5師団派遣に踏み切った。

▽連合軍(8ヶ国3万3800人)は8月14日北京を解放
各国軍隊の掠奪・暴行が横行した中で
1万3千の日本軍は規律正しく勇敢だった

●ロシアは「暴徒鎮圧」を名目に大軍を満州に送り、義和団事件解決後もそのまま居座った

▽日本の採るべき道は二つしかない

ロシアと組むか イギリスと組むか

▽伊藤や井上は「ロシアと妥協し、その要求もある程度入れる。しかし日本の防衛線朝鮮に関しては日本の要求も呑んで貰う。イギリスは大帝国、極東の小国日本との同盟なんて考えられない。あり得ないものを夢見たところで仕方ない」

▽山県や桂太郎はイギリスとの同盟を考えていた
「ロシアは、有利になる時は約束でも何でもするが、都合が悪くなると簡単に反古にする。しかも土地を巻き上げる。現に、朝鮮でも陸戦隊をソウルに送って、ロシア寄りの内閣を作らせ、対馬と目と鼻の先の土地を借り上げ対馬海峡を抑えようとしている。イギリスは、国と国の関係がGIVE AND TAKEだ。日本が何を与えるか、GIVEが問題だが…」

●日英同盟を持ち掛けたのはドイツだった

▽34年3月 松井慶四郎(駐英公使館一等書記官)がクラブで飲んでいると エッカルトシュタイン(独代理公使)が寄って来て「イギリスは日本との同盟を考えている。日本が賛成ならドイツも参加してもよい」

ウイッテ(Sergey Vitte)

1849~1915 帝政ロシアの蔵相として、財政改革、シベリア鉄道建設を推進。ポーツマス講和会議首席全権。1905年、皇帝に立憲政体を承認させ、首相に就任

福島 安正(ふくしま・やすまさ)

嘉永5(1852)~大正8(1919) 信州松本藩出身。陸軍大将。駐独武官の明治25年2月、1年4か月かけて単騎、シベリアを横断して帰国し、世界的な話題に。義和団事件で第1次臨時派遣隊指揮官。参謀次長、関東都督を歴任

日本に対する信頼が日英同盟に

イギリス人看護婦は「絶対とっていいほど信頼できたのは日本兵だけだった」(剛毅)。大勢の中国人が「日本軍の管轄地域なら安全だ」と、保護を求めて来たし「家には日本兵がいる」と、民家が軒先に日章旗を掲げた。

山梨勝之進海軍中尉は、イギリスで建造の戦艦「三笠」回航員としてロンドンに派遣されていた。「福島少将以下の日本将兵が堂々と行動している映画を度々見た。その人気と同時に、日本陸軍および国民というものは、なるほど頼りになるものであるという証拠を間違いなく見せつけたのである。これが、日英同盟というものの締結に大いに力になったわけです」と話している。

山梨 勝之進(やまなし・かつのしん)

明治10(1877)~昭和42(1967) 仙台市生まれ。海軍大将。昭和3年海軍次官。ロンドン軍縮条約締結に努力、佐世保・横須賀鎮守府長官を経て8年予備役。14年学習院長となり、21年にかけて皇太子(現皇)の教育に当たる

▽エッカルトシュタインは 翌日(3月18日)

林董公使を訪ね「イギリス閣僚の実力者にも当たってみたが、日本が提唱すれば、イギリスも同意するに違いない」

▽林は直ちに 加藤高明外相に報告したが

時の内閣は 日露協商模索の 伊藤(第4次)内閣

▽加藤の返電は「しばらくは林個人の資格でイギリス政府の意向を打診せよ」

▽林が ランズダウン外相を訪ねると「イギリスとしても同盟の必要は認める。ただしドイツを入れてはどうか」

▽ところが 打診を重ねるうちに

ドイツのことは 言わなくなった

— ドイツの魂胆は何だったのか —

ウイヘルム2世の回顧録、石井菊次郎の「外交余録」から判断すると、ロシアと日本を戦争させ、それでドイツの安全を高める狙い。

ドイツの立場は、世界一の陸軍大国ロシアの力を弱め、対立するフランスを孤立させる。それにはロシアの大軍を極東に釘づけ出来るよう、極東で事を構える国を作る。日本を措いて外にないが、日本単独では無理だから、日本をその気にさせる同盟国が必要。英が最高だが、世界一の海軍力を背景に孤立政策をとっている。まして黄色人種日本と組ませるとなると、ドイツも進んでこの同盟に参加する素振りを見せなければならぬ。とあって、本当に参加したのでは、今度はロシアがドイツを警戒し、東へ行くのを止めてしまう。最初のうちだけ、ドイツも熱心なように見せかけ話が進んだところで、ドイツは御免蒙るといふのだ。

明治34年1月、英国のヴィクトリア女王(1819～1901)が亡くなった。外孫に当たるウイヘルム2世も葬儀に参列し、その際盛んに英独提携を強調した。エッカルトシュタインは、その皇帝の意向を受けて動いたのだ。

●イギリスが、この話に乗ったのは何故か？

▽最大の理由は「ボーア戦争」に手こずっていた

桂 太郎(かつら・たろう)

弘化4(1847)～大正2(1913)長州藩出身で陸軍大将。陸軍次官、台湾総督を経て明治31年から伊藤・大隈・山県内閣陸相を歴任し34年首相。日英同盟を締結、日露戦争を遂行した。41年再び首相、韓国併合。42年内大臣兼侍従長。大正1年3度首相となるも、護憲運動が高まり「大正政変」で2か月で辞職。2年に反政友会政党として立憲同志会を組織したが病没

松井 慶四郎(まつい・けいしろう)

明治1(1868)～昭和21(1946)大阪生まれ。駐英公使館1等書記官などを経て大正2年外務次官。駐仏大使を歴任し清浦内閣外相。14年～昭和3年まで駐英大使

林 董(はやし・たけす)

嘉永3(1853)～大正2(1913)佐倉藩蘭学医佐藤泰然の子。慶応2年幕命で英国に留学。帰国して五稜郭の戦いに参加。釈放後、岩倉使節団に随行。明治25年伊藤内閣外相。33年駐英公使となり、日英同盟締結に尽力。西園寺内閣外相、通信相

加藤 高明(かとう・たかあき)

万延1(1860)～大正15(1926)愛知県生まれ。三菱に入社、岩崎弥太郎の知遇を得て英国留学。帰国後、三菱副支配人となり岩崎の女婿に。明治27年駐英公使、33年伊藤内閣外相。西園寺・桂内閣外相を経て大正3年大隈内閣外相、中国に21か条要求を出す。5年憲政会を組織して総裁。14年首相に就任、在任中に死去

石井 菊次郎(いしゐ・きくじろう)

慶応2(1866)～昭和20(1945)千葉県生まれ。外務省電信課長、通商局長、次官、駐仏大使を経て大正4年大隈内閣外相。駐米大使など歴任。著に「外交余録」

ボーア戦争

明治32年10月、イギリスは南アフリカの金やダイヤモンド獲得のためトランスバール共和国、オレンジ自由国に侵攻した。オランダ系移民ボーア人は激しく抵抗したが、35年併合。

▽チェムバレン植民地相 早速 ドイツ皇帝と交渉
▽ドイツは予定通り「もし、ドイツがイギリスと組めば、露仏の挟み撃ちに合う」と断ってきた

- ランズダウン外相は7月31日、「日本と同盟交渉をしたいので、日本政府に取り次いでほしい」

イギリス提案の同盟案

①中国領土の保全を維持し、将来その分割を阻止する②日本が韓国に優越な利害を持っている事実に鑑み、イギリスは日本が韓国での自由行動を認める③日本もしくはイギリスがどこかの国と戦争になった場合は、同盟国の一方は厳正中立を守り、もし第三国が敵に加担した時は武力で味方を援助する。

山本権兵衛の「六六艦隊」

「日本の海軍は勝海舟が作り山本権兵衛が育てた」—山本が「大佐大臣」と異名をとるほど、力を見せてくるのは官房主事になった明治26年。西郷従道海相に、老齢幹部97人の首切り迫り、日清戦争を前に海軍人事を一新した。

山本は28年6月、西郷の指示で「新海軍のプラン」、戦艦6隻、1等巡洋艦6隻の「六六艦隊」整備にかかった。山本の戦略眼が優れていたのは、戦艦4隻を1万5千トにしたこと。このクラスの戦艦は、水深の浅いスエズ運河を通れない。戦争になって欧州から極東へ持って来ようとする、アフリカ喜望峰回りになる。この航路に石炭貯蔵施設を持つのは英国だけ。山本は、戦艦6隻を全て英に発注して味方にする算段も。

日露戦争では山本の読み通りになり、バルチック艦隊は半年がかりの喜望峰回りを余儀なくされ、石炭補給に苦しみ続けた。

勝 海舟(かつ・かいしゅう) 麟太郎、維新後は安房

文政6(1823)～明治32(1899) 江戸の幕臣の家に生まれる。蘭学を学び、海軍伝習生として長崎に赴き江戸に帰り軍艦操練所教師方頭取。万延1年遣米使節渡米の際、咸臨丸艦長として日本人最初の太平洋横断航海に成功。帰国後、神戸海軍操練所を設置、諸藩の人材を集め、育成に努力した。慶応2年軍艦奉行となり、西郷隆盛と会見、江戸城無血開城に尽くす。明治5年新政府海軍大輔となり参議兼海軍卿。著に「勝海舟全集」

西郷 従道(さいこう・つぐみち)

天保14(1843)～明治35(1902) 薩摩藩出身。海軍大将・元帥。隆盛の弟。明治2年、渡欧して兵制研究。近衛都督、文部卿、陸軍卿歴任。18年伊藤内閣海相となり、以後6代の内閣で海相

太平洋戦争では

山本構想にあやかり、18吋砲搭載の巨大戦艦大和、武蔵を造った。スエズ運河は水深が問題だったが、今度は幅の狭いパナマ運河。18吋砲搭載には、艦の横幅を大きくとって安定させなければならず、それではパナマ運河を通れない。米国が太平洋、大西洋の2艦隊をパナマ運河経由で有効に使おうとすれば16吋砲にするしかない、との読みもあった。

大艦巨砲で優位に立とうとしたが、海の決戦兵力は戦艦から飛行機に移っていた。大西洋から回航するまでもなく、どんどん軍艦を造ってしまう米国の工業力を見誤っていた。

大隈は西郷従道を評して

「貧乏徳利の如し」—「あの素朴な風貌で何でもござれ、と引き受ける。貧乏徳利は酒でも酢でも醤油でも何で

- 山本は明治31年、45歳の若さで海相に
▽在任7年余り 公平な人事 人を見る目の確かさ
人も軍艦も力をつけていた

次官に40歳、大佐になったばかりの齋藤実を抜擢した。部下の局長に、位でいえば上官の少将が何人もいた。山本は個性強烈、敵の多い人だったが、齋藤は包容力、暖かな人柄で慕われ絶妙なコンビを組んだ。無口で地味だが、闘志を内に秘めた東郷平八郎を連合艦隊長官に起用したのも、山本の優れた決断だった。

山本の時代ほど、若い海軍士官が外国へ行った時代はない。秋山真之は快速巡洋艦「吉野」を受け取りにイギリスへ行き、明治30年6月アメリカ留学。広瀬武夫もロシア留学。皇太子妃雅子さんの曾祖父江頭安太郎大尉(のち中将)が巡洋艦「高砂」を受け取りにイギリスへ行ったように、大勢の青年士官が「六六艦隊」回航に外国へ行った。じかに国際社会に触れ、外の空気を吸収する — 海軍がもの見方の広い人材を養成する国際教育の場になった。

- イギリス閣議の決め手は、海相が提出した覚書

- ▽「イギリス海軍絶対の時代は過ぎた」
- 英戦艦45隻 露・仏は43隻
- 5年後には 53隻ずつ同数に
- ▽極東では ロシアが 新造戦艦 巡洋艦を優先的に回し 露・仏連合の方が優位に
- ▽日本の「六六艦隊」が どちらにつくか
- ▽お互いの便宜供与を謳った「海軍条項」

日英同盟の交換公文「海軍条項」

「両締約国ノ海軍ハ平時ニ於テ可成協同ノ動作ヲ為スヘシ 而シ其一方ノ軍艦カ他ノ一方ノ港内ニ於テ入渠スルコト及海軍貯炭所ノ使用其他両国海軍ノ安寧及ヒ敏活ヲ来スヘキ事項ニ付テハ相互ニ便宜ヲ与フヘシ」

- ▽蔵相意見書で 同盟が決まる

「この同盟でイギリスが何らかの利益が得られるとすれば、それは日本の海軍力である」

も容れて、ちゃんと納まるではないか」。議会でも「六六艦隊」の巨額な建艦費が問題になった。「なぜそんなに費用がかかるのか」「いったい軍艦は何の働きをするのか」。こんな質問が出た時「軍艦は鉄で造ってあります。そして大砲撃ちます」。これだけ答えて壇を降り、煙に巻いたという。

齋藤 実(さとう・まこと)

安政5(1858)～昭和11(1936) 岩手県水沢藩出身。海軍大将。明治17年アメリカに留学し公使館付武官。31年次官。39年西園寺内閣海相となり、5代の内閣に留任して在任9年。大正8年と昭和4年朝鮮総督。7年の五・一五事件直後に首相。10年内大臣となるが二・二六事件で暗殺

東郷 平八郎(とうとう・へいはちろう)

弘化4(1847)～昭和8(1934) 薩摩藩出身の海軍大将・元帥。明治3年から8年間英国に留学。36年連合艦隊長官。日本海海戦でバルチック艦隊を破り国民的英雄に。戦後軍令部長。海軍元老として大きな発言権を持ち、昭和5年のロンドン軍縮条約に反対した。国葬

秋山 真之(あきま・まゆみ)

明治1(1868)～大正7(1918) 松山市生まれ。海軍中将。好古陸軍大将の弟。明治30年米国留学し、海軍切っ手の戦術家。日露戦争では連合艦隊作戦参謀を務め軍務局長在任中に急死

広瀬 武夫(ひろせ・たけお)

明治1(1868)～明治37(1904) 大分県竹田生まれ。海軍中佐。明治30年ロシアに留学。旅順口閉塞作戦で福井丸を指揮、行方不明の部下を探して犠牲になった行為が「軍神」として称賛された

- イギリスの正式提案の時、内閣は伊藤から桂太郎に
▽政府は 前年暮れ

モリソン(ロンドン・タイムズ北緯編)のスクープ記事
「南満州を事実上、ロシアの保護領にする」
露清密約(第2次)に 大きな衝撃を受けていた

- ▽桂は 組閣(6月2日)に当たり

日本だけで 極東の難局に対処するのは無理
どこか ヨーロッパの国との同盟を 大方針に
出来れば その国を イギリスにしたい

- 桂は林公使の請訓を受けて8月4日、葉山の別荘「長雲閣」で元老会議を開いた

- ▽伊藤や井上の心配は イギリスとの同盟が
ロシアを 敵に回すことなりはしないか

- ▽桂は「同盟を結ばなくともロシアはやって来る。
日本は独力で戦わなければならないのだから、
イギリスが同盟してくれれば、それだけ得だ」

- ▽交渉を進めることに 一応の同意を 取り付けた

- 伊藤のロシア訪問

- ▽伊藤は「同盟は出来ればよいが出来っこない」

- ▽エール大学(米)から

名誉法学博士贈呈の 話が出ると
「ついでにロシアへ行く」と 言い出した

- ▽ロシアと 直談判した方が

手っ取りばやいし 現実的だと 考えていた

- ▽送別会の席で

山県が「外交に独断専行は許されない」
桂も「私が内閣首班である以上、やはり事の大小かかわらず、ご報告頂きたい」

- 小村は外相に就任早々、石井菊次郎(電議長)にロシアとイギリスの外交史を調べさせた

- ▽二つの国が どのくらい信用できるか

「歴史から学ぼう」というのだ

- ▽ロシアは 同盟を一方向的に破った点では 常習犯

イギリスは 一度結んだ同盟は 常に誠実に

- ▽小村は

「日英同盟が日本の安全に最良の道」と結論
林公使を全権に任命し 同盟交渉の詰めに

緞帳(どんぢょう)内閣

桂内閣はそれまでの内閣と違って、元老が閣僚として1人も入っていない。「二流内閣」とか「緞帳内閣」と言われたが、緞帳の後ろに控えている元老の同意を、どう取り付けるか。桂がまだぺえぺえの大尉の頃、山県は5歳違いとはいえ中将、陸軍のトップに立っていた。

同じ長州の大先輩、伊藤、井上、山県の顔を立てながら「調整の名人」桂の慎重な根回しが始まった。

林公使に対する政府訓令

伊藤は自ら筆をとって、巻紙にさらさら書いた。「進ミテ英国政府ノ意向ヲ審ラカニセヨ。今回協商ノ成否ハ、一二貴官ノ注意ト手腕ニ由ルベシ」

桂首相が打電させた時、その結びは「同盟ノ成否ハ、一二貴官ノ裁量ト手腕ニ俟ツ」と変わっていた。

林は「この訓令に接した時ほど愉快を感じたことは、余の人生に絶えてなかった」と回想している。

すれ違いの1日

「そんな小むつかしいことを言うならロシア行きはやめにする」。駄々をこねた伊藤が、井上になだめられ、横浜を出港したのが9月18日。清国公使をしていた小村が外相に就任するため、東京へ帰ってきたのが翌19日。

伊藤とすれ違いのこのたった1日の差が、「日本の運命に決定的な影響をもたらした」という人もいる。小村は元老という、今では想像もできないほど大きな存在の制約を全く受けずに、日英同盟に向かって驀進することになる。

- ▽ロシア入りした伊藤は ウイッテなどと
「満韓交換論」で 日露協商の道を探った
- ▽満州は 事実上 ロシアが占領しているのだから
その自由を 認める代わりに
韓国での日本の権利を 認めてほしい
- ▽この時期の 伊藤のロシア訪問
イギリスは「二股外交ではないか」と疑い
政府は慌てて「伊藤は個人の資格」と弁解
- ▽結果的には 伊藤のロシア行きが
イギリスを 一気に 同盟に踏み切らせる効果

- 12月7日、日本の最終態度を決める元老会議
- ▽パリに着いた 伊藤からは
「日英同盟調印を延期せよ」の 電報
- ▽強硬に 日露協商を主張する 井上の前に
小村は これまで 日英間で交わした
電報の束を ドサリと 投げ出した
- ▽日英交渉が 国家として
もう引き返せない所にまで 来ていることを
雄弁に物語っており 井上も ついに沈黙した
- ▽そして「小村意見書」が 日英同盟を決めた
- ▽小村の判断が いかにか正しかったかは
日露戦争の経過が はっきり 証明している
- ▽35年1月30日 日英同盟は調印された

林公使は「回顧録」に

「小村は井上を顧みず、伊藤をも恐れず、二人を無視して自分の所見を断行して動かなかった」

- ロシアは、一度は満州撤兵を約束したが…
- ▽露・清撤兵協定(35年4月8日)で
「18か月以内に満州から撤兵する」ことに
- ▽東清鉄道南部支線が 完成(36年7月1日)すると
逆に 鉄道を使って 満州へ続々と大軍
- ▽36年5月には 鴨緑江を越え 陣地構築
- ▽ロシアは「日本は押せば引っ込む」
日本が戦争を仕掛けるとは 思っていなかった
- ▽ニコライ二世は「戦争はない。なぜなら自分がまだ戦争を望まないからだ」戦争を始めるのは
軍隊・物資を大量に送れる 複線になってから

小村意見書

- 一、イギリスは東洋の現状維持を国策としている。侵略的なロシアと手を握るより、各国の支持、ことに清国の理解、協力が得られる。
- 二、イギリスは世界一の通商国だから、イギリスと同盟すれば財政、通商上の利益が大きいし世界の信用も得られる。
- 三、軍事上の利益が大きい。ロシアと結べば日本の軍事目標はイギリスになり、イギリスに対抗する海軍を持つには膨大な金がかかる。これに対してロシアを敵にしても、ロシア艦隊は旅順、黒海、バルチック艦隊と三つに分散しているから、日本は順次これを各個撃破して行けばよい。

日英同盟

日本がロシアと戦争になれば、イギリスは中立を守る。もし、フランスかドイツがロシア側に加わればイギリスも日本側に立って戦う。フランス、ドイツを牽制した防守同盟で、期間5年。これが日本が戦争になれば、イギリスも自動的に参戦する攻守同盟となるのは38年8月12日、期間も10年。

ローゼン露公使は本国に報告 ……

「日本の内政・外交は、元老の同意がなければ何も行なわれぬ。総理大臣といえども、元老の意に反しては何も出来ない。そして元老たる三、四人の者は功なり名を遂げ、年もとっているの、この期に及んで一国の安全を賭してロシアに戦争を挑んだりすることは万に一つもないだろう」

開戦時の元老は、長州が伊藤、山県、井上の3人、薩摩は大山、松方正義。意見に違いはあっても、共通していたのは国

●日本は、ロシア側回答(36年12月11日)で開戦決意

▽朝鮮での日本の軍事的利用の禁止

北緯39度線以北を中立地帯とすること

満州については一言も触れていなかった

▽アメリカの日本公使は「日本が偉大な節度と忍耐を行使して行動してきたことは、当地の公平な観察者全員の見解である」と本国に報告

— 国際世論を味方につけたデニソン —

デニソンは、小村からロシア宛て外交文書の執筆を命じられ、1晩考えても考えがまとまらない。翌朝小村の所へ来て「止むを得ない場合は、戦争をも辞さない覚悟をお持ちですか」と尋ねた。「もし、その覚悟があるのなら、特に温和な文章にすべきだし、戦争を絶対に避けたいのなら、威嚇するためにも強い語調にした方がよいでしょう」。小村は「交渉次第だ」。

デニソンは小村の戦争決意を感じ取り、温和な文章で作成したという。開戦後、こうした外交文書が世界に公表され、日本の平和努力を世界に印象づけると共に日本への同情を集めることにもなった。石井菊次郎は「天が日本に幸いして天降らせた」と絶賛している。

●日本は日英同盟によって、三国干渉以来不安定な国際的立場を、大正年間まで安定させることが出来た

— 石井菊次郎の言葉 —

「外交に指南書があるとすれば、それは歴史であり、外交史である」

▽昭和に入ってから日本の外交は

歴史から陸奥・小村から何を学んだのか

▽日本の太平洋戦争突入を決定的にした

日独伊三国同盟(昭和15年9月27日締結)にしても

ドイツ勝利を信じただけに賭けた

松岡洋右外相一人により進められた

▽外交に一番大切なのは国家としての信用

ドイツがいかに信用できない国だったか

際社会の荒波の中で日本をどうやって生き延びさせるか — 日本の実力について常識的判断を持ち、甘い期待もなければ思い上がりもなかった。だから、出来れば戦争を避けたいとギリギリの努力をした。

ローゼン(Roman Rosen)

1847~1922 ロシアの外交官。明治30年駐日公使となり、33年再び公使。38年駐米公使。ロシア革命でアメリカに亡命

松方 正義(まかつ・まさよし)

天保6(1835)~大正13(1924) 薩摩藩出身。明治14年から16年間大蔵卿・蔵相を務め、日銀創設、兌換銀行条令制定など財政の基礎を作る。24年、29年首相。

デニソン(Henry Denison)

1846~1914 アメリカの外交官。明治11年神奈川領事として来日。退官後、13年から大正3年にかけて外務省顧問。条約改正に尽力し、日清・日露戦争では外交文書の作成に当たった。東京で死去

— お雇い外国人 —

明治政府は近代化のため、大勢の外国人を雇い、新知識、新技術の導入に努めた。明治7年には527人を数えた。医学のベルツ、教育のクラーク、法律のロエスレルなど鉄道・電信・灯台は英、造船は仏、教育・開拓は米、医学は独と、多分野にわたった。小村の年俸が6千円なのに、デニソンは1万円。

松岡 洋右(まつか・ようすけ)

明治13(1880)~昭和21(1946) 山口県生まれ。衆議院議員、満鉄総裁を経て昭和15年近衛内閣外相。三国同盟、日ソ中立条約に調印。戦犯容疑で拘禁中病死